とみいし会報

晴天の心

立教１８５年４月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466　090-5243-4669

月次祭　**4月17日（日）午前10時～**
婦人会例会　4月 9日（土）午前10時～

桜の便りが届くようになり、うららかな陽気が心も軽くしてくれますね。
日本では４月は、区切りの時、様々なものが新しくなる月です。
新入学、新学期、新社会人などなど、新しく始まる月ですね。
私たちの教えを伝えてくださった、おやさまが生まれたのが４月１８日。
おぢばでは、神殿でおつとめを行いその後、毎年おやさまへの祝賀を華やかに行っています。その関係で、当教会の祭典日が４月は１７日なのです。教祖百年祭までは、慶祝期間が設けられ４月１８日から２６日までの間、おつとめが行われ各種行事が行われていました。１９日は婦人会総会が今も続けて行われています。
３月２０日頃からおぢば周辺では、はや咲きの熱海桜などが咲き始め、桜を楽しみながらの参拝となります。もっとも、神苑ですので、飲食はできませんから花を楽しみ散歩することになります。
おやさまは、いつも私たちを見守ってくださっています。
どうぞ、おぢばがえりをして、日頃の感謝を込めておつとめをして、晴れやかな気持ちで神苑の桜を楽しんでください。

教祖誕生祭　寛政 10 年(1798 年)4 月 18 日にお生まれになった、教祖のご誕生をお祝いして勤められます。
　祭典　2022 年 4 月 18 日(月)10:00　天理教教会本部

よろこびのハーモニー ※よろこびの大合唱から名称を変更しております。
　新型コロナウィルス感染予防対策として、マスク着用の厳守、密集・密接を避けるなどのご協力をお願いいたします。(状況により中止となる場合があります)
　日時　2022 年 4 月 18 日(月)　誕生祭祭典終了直後　場所　本部中庭

今日の
おやのことば

「皆一名一人の心の理を以て生れて居る」
さあ〳〵人間というは神の子供という。
親子兄弟同んなじ中といえども、
皆一名一人の心の理を以て生れて居る。

おさしづ　明治23年8月9日

四月のうた

松田元雄 作詞
團伊玖磨 作曲

一
ぼくらの　やさしい　おやさまの
きょうは　うれしい　たんじょうび
花いっぱいの　春四月
みんなで　花を　かざりましょう
スミレ　タンポポ　レンゲ草
スミレ　タンポポ　レンゲ草

二
みんなの　ひながた　おやさまの
きょうは　たのしい　たんじょうび
夢いっぱいの　春四月
みんなで　うたを　歌いましょう
みどり　まぶしい　草の上
みどり　まぶしい　草の上

おやのこころ

幼いころから考えることが好きな子供でした。

小学生のときの写真を見ると、いつも口を開けてぼんやりした顔をしています。「宇宙の果てはどこにあるのか？」「生まれる前の自分はどこにいたのか？」「なぜダンゴムシは丸くなるのか？」などと、いつもとりとめのないことばかり考えていました。

ある時期から、本の中に答えがあると思うようになり、それこそむさぼるように本（特に事典類）を読みました。でも思春期になって、すべての答えが本の中にあるわけではないということを知って、急に気力がなくなり、またぼんやりと過ごす日が続きます。

その後は、本の中に答えが見つかる問いもある一方で、自分で答えを求めなくてはならない問いもあることを知り、あらためて学ぶことを始めました。

「親子兄弟同んなじ中といえども、皆一名一人の心の理を以て生れて居る」

いまだに考え続けている問いの一つは、「現在の自分は、なぜ現在の自分としてここにいるのか？」というものです。普段は忘れていますが、何か困難な状況に直面すると、すぐに心に浮かんできます。

「なぜ自分が……」と考え込む前に、親神様の思召を感じて心を治めるべきなのですが、なかなか素直に受けとめられないこともあります。だからこそ、何度も「おさしづ」を拝読し、真実の答えに耳を傾ける必要があるのでしょう。（岡）

・・・

この方と同じように、子どもの時は本が友達でした。特に好きだったのは空想科学小説と呼ばれるもの。どこか科学的根拠に基づいて書かれているところが面白かったですね。言葉の比喩表現などから、語彙が増えていきます。また、視点を変えることでのものの見方や捉え方の変化も小説が基本にあったと思います。

無いものを作り出すことは、まずはやってみないとわからないです。体験することは、机上で考え計算することの何倍も得ることができるということも、ボーイスカウト活動で体験したように思います。最近はどうしても、Web での疑似体験で終わってしまいがちになっていませんか？　あるカメラの撮影設定で Web 動画が公開されていたのですが、撮影者は当然のようにさらっと設定画面を見せるだけで撮影に移ります。しかし、実はそこが肝心なのですが、見てもわからないので、止めながら実際に操作をすることで習得できる。

そんなことがつい先日ありました。
取扱説明書でもよく読めばわかるのかもしれませんが、Web 動画には敵いません。しかし、いざ実際に自分が使うためには、見ただけでは習得できていないことが多いですから、事前にやってみることでの得たことの方がもっと確かで安心できる。
不思議と神様は、事前に大きな問題に直面する前にさらっと事前に体験できる内容を見せてくださる。そのときはよくわからないうちに対応していたりするのですが、その後の大きな問題を乗り越えたときに、あ～あ、あのときの出来事はこの問題の前振りだったのかと気づかされます。そして、この問題を乗り越えられるように事前に知らせてもらっていたことに驚き感謝してしまいます。

この道は、常々に真実の神様や、教祖や、と言うて、常々の心
神のさしづを堅くに守る事ならば、一里行けば一里、二里行けば二里、
又三里行けば三里、又十里行けば十里、邊所（へんしょ）へ出て、
不意に一人で難儀はさゝぬぞえ。
後とも知れず先とも知れず、天より神がしっかりと踏ん張りてやる程に
二人三人寄れば皆皆話し、今までは、わしはこんな心で居た、
俺はこんな心使うて来た、と皆んなめん／＼の心通り、言わしてみせる。
神の自由自在、よう聞き分け／＼。
案じる事要らん／＼。こういうさしづあったと、皆々の処へ伝えてくれ。
一人や二人のさしづやないで。皆々伝えてくれ／＼。

天理教教祖伝逸話篇
六〇　金米糖の御供
　教祖は、金米糖の御供をお渡し下さる時、
　「ここは、人間の元々の親里や。そうやから砂糖の御供を渡すのやで。」
と、お説き聞かせ下された。又、
　「一ぷくは、一寸の理。中に三粒あるのは、一寸身に付く理。二ふくは、六くに守る理。三ふくは、身に付いて苦がなくなる理。五ふくは、理を吹く理。三、五、十五となるから、十分理を吹く理。七ふくは、何んにも言うことない理。三、七、二十一となるから、たっぷり治まる理。九ふくは、苦がなくなる理。三、九、二十七とな るから、たっぷり何んにも言うことない理。」
と、お聞かせ下された。

八一　さあお上がり
　上原佐助は、伯父佐吉夫婦、妹イシと共に、明治十四年五月十四日　（陰暦四月十七日）おぢば帰りをして、幸いにも教祖にお目通りさせて頂いた。 教祖は、大層お喜び下され、筍と小芋と牛蒡のお煮しめを、御手ずから小皿に盛り分けて下され、更に、月日に雲を描いたお盃に、お神酒を注いで下され、
　「さあ、お上がり。」
と、おすすめ下された。この時、佐助は、三十代の血気盛りであった。
　教祖は、いろいろとお話し下されて後、スッとお手を差し伸べられ、佐助の両手首をお握りになって、
　「振りほどくように。」
　と、仰せられたが、佐助は、全身がしびれるような思いがして、ただ、「恐れ入りました。」
　と、平伏するばかりであった。妹のイシが、後年の思い出話に、「その厳かな有様は、とても口には言えません。ハッとして、思わず頭が下がりました。」と、語っている。
　この時、教祖の温かい親心とお力を、ありありとお見せ頂いて、佐助は、いよいよたすけ一条に進ませて頂こうとの、確固たる信仰を抱くようになった。

立教185年

全教一斉 ひのきしんデー

提唱90周年

Hinokishin Day

4月29日(金祝)

今年の全教一斉ひのきしんデーには、南河内支部は、新型コロナ感染拡大防止の観点から会場を設けません。それぞれが、ご家族でお住まいの地域周辺や近くの教会で、ひのきしんに励ませていただきましょう。

親神様へ日頃の感謝のこころを込めて行うことすべてが、ひのきしんです。この日だけでなく、この日をきっかけにどうぞ身近で、続けて出来るひのきしんを始めてみましょう。

「ひのきしん」のあり方は、人それぞれです。

災害救助に行くことも、ひのきしん。出会った人に挨拶することも、ひのきしん。勉強することだって、ひのきしん。

「ひのきしん」とは、具体的な行動(プロジェクト)を意味している言葉ではなく、信条(イデオロギー)を指している言葉だから。

被災地支援をする、近所のゴミ拾いをする、などといったプロジェクトそのものが「ひのきしん」になるわけではなく、まず生きる喜びから生まれる感謝の心があって、その信条(イデオロギー)が結果的に行動や生活の仕方に影響を与えていくというわけですね。

ですから、「ひのきしん」はきわめて自己完結的。当事者が「ひのきしん」だと認識していれば、それは周囲の評価など関係なく、そのまま神様に「感謝の気持ち」を届けられる行為となるのです。

さあ、こころ勇んでひのきしん

報恩感謝の心で 一手一つにひのきしん

——家族ぐるみで参加しよう

【差出人】 〒584-0031 富田林市寿町4丁目9-10 天理教南河内支部 伏井啓之